

金融安定理事会による報告書

「クロスボーダー送金の改善に向けた G20 ロードマップ：第 1 回統合進捗報告書」 エグゼクティブ・サマリー（仮訳）

- クロスボーダー送金の改善に向けたロードマップは、G20 の優先取組事項である。2020-21 年のこれまでの作業は、主に、先行きのロードマップのアクションの基盤となる要素を固めることに焦点が当てられてきた。
- この基盤の鍵となるのは、クロスボーダー送金が直面するコスト、スピード、透明性、アクセスの課題に対処するためのロードマップで目指すゴールを、グローバルレベルでの定量的な目標として公表することである。これらの目標は、プロジェクト全体の野心を示すうえで重要な役割を担い、説明責任を生む。本報告書で概要を示した目標は、本年前半に実施した市中協議の回答からのインプットを反映しており、今後、目標達成に向けた進捗状況のモニタリング方法を発展させていくことで、2022 年には完全に運用が可能となる。
- G20 のロードマップの一年目に行われた基礎的な作業には、既存および新興のシステムや取決めのストックテイクと分析も含まれる。これらのストックテイクは、既存の国際基準やガイダンス、既存の各国や地域のデータフレームワーク、決済システムに関する稼働時間やアクセス、サービスレベル合意・スキームの共通要素、PVP 決済の利用、決済システムのインターリンク、CBDC の設計など、多様なトピックを対象としている。この作業は、先行きの実務面の改善のための強力な基盤と指針になる。
- ロードマップで設定された 2021 年中のマイルストーンの殆どが、順調に完了もしくは最終段階に近づいている。現在進行中の作業が広範囲にわたることや、外部関係者への十分な働きかけの必要性を踏まえ、一部ではタイムラインが延期されている。ただし、ロードマップで目指している最終目標は全く変わっていない。ロードマップの相互に関連する 19 の構成要素 (Building Blocks<BB>) の作業を同時に進めることは、関係当局にとって重要な取り組みとなっている。より探求的と位置付けられる BB (CBDC やステーブルコインなど) がとりわけ外部からの注目を集めるのは当然ながら、より基本的な運用面や技術面 (流動性供給枠組みや ISO20022 メッセージフォーマットなど) を進展させることも同様に重要である。
- ロードマップは、机上の分析や提言を行うだけでは実現しない。2022 年に行われる次の作業には、更なる分析だけでなく、基本的なシステムや取決めの具体的な改善に関する提案 (PVP 決済の導入拡大など) の策定や新たなシステムの開発も含まれる。これらの実務的な改善や新たな動きの活用には、グローバルな協調と継続的な政治的サポートが必要となる。また、システム、プロセス、技術への投資も必要となる。

- この取り組みの成功は、官民の協働へのコミットメントに大きく依存する。今後数年間において、取り決めた変革を実現し、ロードマップで設定された目標を達成するためには、官民の共同作業が必要となる。中央銀行は、コアとなる決済システムを改善し、そのシステムを利用する民間セクターがこれに倣えるようにしなければならない。同時に、民間セクターによる新しい決済システムや取決めの開発、および既存のサービスの向上も、必要となる改善に貢献する。目標の達成に向けてタイムリーに改善を実現していくためには、官民ともに必要な機能向上のための作業計画と予算計画の策定に早急に着手する必要がある。

以 上